

2004 年度協働事業提案 調整記録

- | | |
|----------|---|
| 1 . 提案事業 | ホームファーマー制度を支援し、「地産地消」「有機農業」を推進するための基盤整備 (Cグループ) |
| 2 . 日 時 | 6月18日(金) 15時40分から16時40分 |
| 3 . 場 所 | 市役所情報政策課横会議室 |
| 4 . 参加者 | 提案者：NPO法人フーズホ-センター 担当委員：内田俊氏 内田哲世氏
調整参加課：情報政策課(村山) 農政課(高井 荻窪)
事務局ボランティア(中島) 市民活動課(井東) |

【主な内容】

○提案者

- ・ 提案の主旨は、地産地消・有機農業。新しく農業を始めたいという人を対象。ホームファーマー制度支援の部分にはこだわらない。
- ・ これまでの経験の蓄積により、元気やさいネットのシステムを提供できるため、市とともに、新規農業従事者支援を行いたい。
- ・ 法律の壁を乗り越えるため、特区の提案者として自ら動く考えはない。
- ・ 協議の結果、今回の提案が現在の農政課の施策との整合性もなく、協働のご希望がないと感じたので、これ以上協議を続けても無理と判断したため、取り下げることにした。
- ・ ただ、法律の壁はあるかもしれないが、市への要望として、今後都市農業をどうしていくのか、という政策的な視点を持ってほしい。新規農業従事者を増やさないと、大和の農業は衰退するばかり。

○委員 事務局ボランティア

- ・ 協働すべき部分がよくみえない。
- ・ 主旨はわかるが、現在の制度的な制約があるなかで(1~2年の研修後に県の農業従事者の認定 農地30アール以上)新しく農業をやる人が現実にいるのか。
大和市では具体的な要望は受けていない(農政課)。
- ・ 特区の制度を活用してみる気持ちはないのか。

○農政課

- ・ 農家が元気やさいネットのシステムを理解し、利用しようとするか疑問。
- ・ 直売所もあり、現在の農業従事者には、あまり利用されないのではないか。
- ・ 後継者難のなかで大和の農業を何とかしたい、という想いは同じ。ただ今すぐどうこうできるものでもない。長い目でみてほしい。

○事務局

- ・ 今回、これ以上協議を進めないとのことだが、7月18日の公開検討会には参加いただき、提案者の想いを出してほしい。

【確認事項】

- ・ 関係者で提案の実現性を検討したが、法律の壁や現在の関連施策の状況から、今回の提案に関わる検討は、ここまですることが関係者で了解された。
- ・ 提案者は公開検討会(7/18)には参加し、その想いを伝える。

(記録者：市民活動課 井東)